

日銀の視点

本年3月の米国・シリコンバレー銀行の破綻以降、米欧の金融部門を巡る不確実性が高まった。日銀は、「金融システムレポート」の直近号（4月21日公表）において、わが国の金融システムについて、米欧の状況も踏まえた上で、「全体として安定性を維持している」と評価している。その背景には、わが国の金融機関が、充実した資本基盤や、安定的な資金調達基盤を有していることなどがあ

日銀水戸事務所長 上野 淳

金融安定 予断なく点検

「金融システム
の安定」とは、さまざまな金融市場や多数の金融機関から成り立っている「金融システム」が正常に機能し、利用者（企業・国民）が安心してお金の受け払いや貸し借りを

うことができる状態をいう。日銀にとっては、「物価の安定」と並ぶ目的だ。以下では、これに向けた取り組みを紹介したい。

金融システムの安定のためには、金融機関の経営が健全に行われていることが重要で

ある。日銀では、取引先の銀行、証券会社などに対して、立ち入り調査（考査）を行ったり、ヒアリングや提出資料の分析など（オフサイト・モニタリング）を行ったりして、これらの取引先の経営実態の

し、それに基づき対応を図っていく「マクロ・プルーデンス」の視点も重要だ。日銀では、こうした視点も踏まえて金融システムの安定性を評価し、政策運営などに活用するとともに、冒頭に触れたよう

な「金融システムレポート」を通じて公表している。

把握に努め、必要に応じて改善に向けた助言を行っている。また、個々の金融機関に着目する「ミクロ・プルーデンス」の視点だけでなく、金融システムを全体として捉えてリスクの所在を分析・評価

さらに、これらの取り組みにもかかわらず、一つの金融機関の破綻が金融システム全体に連鎖的な混乱をもたらす可能性が高まった場合には、これを回避するため必要に応じて、「最後の貸し手」として、一時的に資金が不足した金融

機関に対し資金供給を行うことがある。いわゆる「日銀特融」もその一つだ。金融市場のグローバル化が進む中、金融システムの安定確保を図るためには、国際的な連携・取り組みも欠かせない。日銀では、海外の中央銀行や銀行監督当局とのネットワークを活用し、金融システムを巡る認識の共有や意見交換を行っているほか、金融規制に関する国際的な議論にも参画している。

これらの取り組みを通じ、金融システムの状況について、引き続き予断なく点検していく。

（次回は6月10日掲載）